

会 議 等 経 過 報 告 書

1. 件 名	令和7年度第1回大船渡市立図書館協議会
2. 日 時	令和7年7月18日（金） 午後1時50分～午後4時
3. 場 所	大船渡市民文化会館（1階会議室）
4. 出 席 者	委 員 ： 藤村敏夫会長、金野晋副会長、金野洋子委員、佐々木加代子委員、村上泰子委員 図書館 ： （市）佐々木部長、平野館長、木村館長補佐、菅野係長、田中主任（指定管理者）原田総括責任者、中井業務責任者、小野寺副業務責任者
会 議 等 の 内 容 （要 旨）	
1 開会（進行：平野館長） 委員出席状況の確認。出席5名、欠席3名。 2 委員紹介（佐々木部長） 3 会長あいさつ（藤村会長） 4 議事（進行：藤村会長） 報告第1号 令和6年度図書館事業の実施状況及び利用状況について（木村館長補佐、原田総括責任者説明） ■（藤村会長） 企画図書展は25回行っており、かなり力を入れていることが来場者増に繋がっている。 職場体験のポップ展示も多く目の目に触れ、非常に良い機会になっている。職場体験をした子どもたちにとっても、いいことだと思っているので、今後も充実させて欲しい。 ■（佐々木加代子委員） 作家を呼んでの講演会は、お金もかかるものか。岩手県には直木賞候補者の方もいることから、震災に関わる本を見ながら講演会を含め、話が聞けたら良いと思っている。 （原田総括責任者） リアスホールの20周年など、大きな節目に実施できないか検討している。 ■（藤村会長） 企画展はスタッフで相談しながら企画を進めていると思うが、回数が25回になると大変ではなかったか。 （中井業務責任者） 年間計画で、この月にこの企画というのはあらかじめ用意しているものもあるが、追悼展や話題になった事柄、市民文化会館や市役所各課との連携図書展を追加して行っている。 例えばリアスホール内で講演会が行われる際に、その会場でも図書を展示し、後日図書館に来た際にも見られるというように二段構えで展示を行った。当日講演会に来られなかった方も、図書館の展示を通して知ることができるという点で良かったと考えている。 ■（藤村会長） ポップなどの技術はどこで学んでいるか。 （中井業務責任者） 研修や図書館の資料から学んでいる。中高生の職業体験でも資料を活用しながら取り組んでもらっ	

ている。生徒たちが作ったポップや作品を、来館者が見て、紹介した本を手にとってもらうという流れができており、読書推進に繋がっている。

（村上委員）

大人の塗り絵はこれまでにやったことがあるものか。また、画材等はどのように準備したか。

（中井業務責任者）

過去に一度実施したことがあり、参加者から大変好評だったことから再び行った。

画材については、弊社から依頼をして出版社に用意していただき、講師も紹介いただいた。

クーピーを使用したことにより、力を入れなくても書きやすく、複雑な色を表現できて、参加された方も自分の作品に満足されている様子だった。

（村上委員）

企画を考える時は、テレビの情報も参考にしているのか。

（中井業務責任者）

図書展示もそうだが、読書推進のイベント企画にあたっては、新聞や色々なメディアからの情報を参考に、どんなことに利用者のニーズがあるかを調べている。

また、これまで図書館を利用したことがない人にも、イベントをきっかけに様々な本があると知ってもらい、生涯学習、趣味の幅を広げるなどのという観点でも考えている。幅広い年代に利用してほしい。

■ **（金野洋子委員）**

生涯学習課と図書館とで連携しているのか。

（平野館長）

市役所の各課と連携した企画図書展、市民文化会館の指定管理者開催の講演会に併せて図書展を行うなど、広がりが見られるようにしている。

また、生涯学習課としては、地域ボランティア研修について、図書館と一緒に取り組んでいる。

（藤村会長）

生涯学習課とは定期的に打ち合わせを行っているか。

（平野館長）

毎月、市立図書館と市民文化会館の指定管理者と打ち合わせをしている。令和6年度から市民文化会館も指定管理が始まったことから、お互いに相乗効果があるような事業ができるようにと考えている。

作家による講演会は集客力の高い事業であるが、費用面の問題もあることから、会館との連携を含めて、貴重なご意見なので今後の事業運営の参考とさせていただきたい。

（藤村会長）

今年は直木賞も芥川賞も「該当作なし」となったようだが、釜石市の作家も候補となっていた。今だから見たい、聞きたいということもあるかもしれない。

■ **（藤村会長）**

今年は図書の譲渡は考えているか。

（中井業務責任者）

5月に雑誌の譲渡会を行った。当初3日間の予定だったが、好評だったことから1週間延長して実施した。

図書の譲渡については、今後は不定期で行いたいと考えているが、小学生、中学生向けの図書については学校図書館を優先に行い、その後、一般への譲渡という流れで考えている。

■（金野洋子委員）

去年のアンケートの意見で雑誌を増やして欲しいとあったので、今日、早めに来て雑誌コーナーを眺めた。農業のマニアックなものもあった。選定の仕方はどう決定しているのか。一度決定すると継続的に購入するのか。

（中井業務責任者）

雑誌に関しては、利用者の注目度も高いことから、意識して選んでいる。1年に1回、必ず見直しの期間を設けており、全ての雑誌の利用率を調べている。委員の話にあった雑誌は「現代農業」のことと思うが、利用率が高く、一昨年のもも利用されるほど、とても内容の濃い雑誌である。

館内で見て満足されるという内容の雑誌もあるが、雑誌の内容を含めて検討している。

また、利用者の日々の希望の声を書き留めておき、必ず候補に入れて検討している。

すべての雑誌について、どの年代が利用されるかという点についてもバランスを取って入れるようにしている。

（小野寺副業務責任者）

一定期間を設けて4人で選定している。予算との兼ね合い、利用者の意見を踏まえ、図書館に入れることによるメリットなど、非常に考えて選定を行っている。

また、書店にも協力いただいております、見本を見ながら既存雑誌とどう違うか、同ジャンルでもどちらが良いかと話し合いながら進めている。

（金野洋子委員）

アンケートでは雑誌を増やしてほしいという意見だった。現在増えているのか、他の図書館と比べてどうかなどの去年の改善点はどうなっているか。

（平野館長）

図書等の購入費用については、市からの指定管理料に含めているが、図書等の購入予算は増やすことはなかなかできず、一定の金額で推移している。その中で、雑誌も含めて本の値段が上がっていることは課題と考えている。

今回初めて分野別の貸出状況を示したが、雑誌は5,000冊を超えて、かなり貸出されている。館内で閲覧する方も多くいる。こういったデータを取りながら、21回もの選書会議をやっているというのは、指定管理になってから充実した部分だと思っている。

データを見ながら、司書を中心に、私も含めて選書について議論しながら進めているので、これからはニーズを見ながら、限られた予算ではあるが、利用者が求めている図書、雑誌を揃えていくよう努めたい。

（藤村会長）

どの自治体でも予算は縮小傾向にあるので、非常に大変と思う。予算を上手に使うということが非常に大事である。購入予算は減らずに予算を確保しているようなので、意見を頂きながら重要な所は入れてもらうようお願いする。

■（金野副会長）

図書館だよりについて、今年度から暑いことを考慮して長い期間の夏休みとなった。子どもたちが図書館を利用する機会もより多くなってくる。このチャンスを生かした企画や、図書館だよりの中身を工夫が必要ではないか。

（中井業務責任者）

夏休みが、例年よりも1週間程度長いという情報を得たことから、現在、国語の教科書の中で紹介されている本の企画図書展を行っている。当初8月上旬までを予定していたが、10日ほど延長して展示することとした。今後も事業や企画展示について考えていく。

■（金野副会長）

図書館情報の発信について、若い人を中心にSNSを見ている人が多いので、それら活用して発信していくというのは非常に大事である。来てもらうための発信だけではなく、実施済みのイベントの

短い動画や、利用者の感想の動画を載せることで、「こんなことをしているのか」と受け止め方も変わってくるので、検討してほしい。

（藤村会長）

Xの投稿の表示回数13万回はすごいと感じた。

（原田総括責任者）

なぜ表示回数が急増したか調べたところ、図書館の専門情報サイトで、大船渡市の林野火災に関連して、大船渡市立図書館がこういう投稿をしているという記事が出されたようだ。フォロワーも増加した。より多くの人に見てもらうためには、外部の力を使わなければならないことがよく分かった。

投稿する際に、著者名や出版社名等を入れると、出版社の編集部が、それを再投稿してくれる。そうするとその出版社のフォロワーにも届く。

以前からハッシュタグは活用しているが、今後は、文章も戦略的に考えていかなければならないと感じている。

■ **（金野洋子委員）**

林野火災に関連し、該当校にお金が入るという話を聞いたがどうか。

（菅野係長）

委員の話は把握していないが、別途、日本図書館協会から被災図書館の復旧・復興の支援を行うという案内が来ており、学校図書館の図書購入に活用できるかとの問い合わせを行っている。情報の収集も行い、活用できるものは各学校等に展開したい。

■ **（金野洋子委員）**

学校の授業で使う関連図書について、各学校に配分される図書購入費からでなく、教育委員会が全校分購入して配布するという方法もあるのではないかと。教科書で紹介される本を全て揃えている学校はない。

一冊3千円から5千円もする本があり、セットであっても1冊しか買えない状況である。

国語の教科書の企画展の情報は、学校にも共有しているか。

（中井業務責任者）

6月に開催された学校図書館協議会で案内を行っている。

（金野洋子委員）

子どもが借りるよりも、先生が授業に使うために借りる場合が多いと思うので、図書館にある一覧表を各学校に渡した方が先生方も使いやすいのではないかと。

（中井業務責任者）

展示しているものは一部で、実際に掲載されている本は倍ぐらいある。一か所に展示することは難しいため、その中から厳選して展示した。一覧表については学校に提供するように検討している。

（平野館長）

教科書が変わる都度、関連図書を図書館で購入をしている。また、移動図書館車が学校に出向くのに合わせ、直接本を届ける事業も考えているので、事業計画案の中で説明させていただく。

（金野洋子委員）

図書館ボランティアが、先生から「こういう本ないですか」と聞かれることもある。その際に一覧表があれば、学校にないので図書館に依頼しますかというやりとりが、すぐにできるようになる。学校と図書館のより円滑な連携を、図書館ボランティアが仲介できればと考える。

協議第1号 令和7年度図書館事業計画（案）について （指定管理者 原田総括責任者説明）

■（金野洋子委員）

最近、児童から釣りの本がないかとよく聞かれる。写真がたくさん載ったわかりやすい釣りの本を、学校配本の中に混ぜてはどうか。

（中井業務責任者）

配本に関しては、実は年度当初にある程度、その学年に合わせた本のセットを選定しており、それを循環させる形式としている。子ども向けの釣りの本も多くは出版されていないが、良いものを見つけたら購入したい。

（金野洋子委員）

夏休みや冬休みに、科学実験の図書の内容を基に、子どもと大人と一緒に体験できるイベントを行ってはどうか。図書の紹介ができ、勉強にもなる。

（中井業務責任者）

8月31日に図書館サイエンスショーを行う予定としており、会場内に関連図書や科学実験の楽しい本を展示させていただく。当日、借りられることも案内し、読書へ導いていきたい。

■（金野洋子委員）

今は、関連資料をインターネットからダウンロードしている。学校に図書を毎年少しずつ買ってもらっているが足りていない。授業する時期はどここの学校でも同じのため取り合いになってしまう。

（中井業務責任者）

昨年度、先生から図書館に対し、授業で使う資料の問い合わせの様式を作り、教科書で関連図書として紹介されている図書及びそれ以外の関係する図書を提供した。今年度も学校図書館協議会の時に様式を各学校へ渡し、学校内で共有するよう案内した。

また、先生個人が図書館を利用される際には、学校としての団体貸出の方法の案内と、図書資料の他の学校とのバランスの配慮のお願いを行っている。

■（金野副会長）

ホームページが新しくなることは非常に期待している。トップページからいろんな情報に行けるように、ダウンロードもできるようであれば非常に良い。

また、利用案内等の情報発信、他の図書館との連携については非常に重要である。図書館全体として相互に盛り上がっていくような機運が出てくる。

（藤村会長）

QRコードを子どもたちやその親世代は使っているので、工夫していかないといけないと思う。指定管理者のやる気が十分見えているので期待している。

（金野副会長）

学校ではタブレットを使用している。教科書にはQRコードがついており、読み込むと動画や練習問題が出てくる。

QRコードから図書の紹介や図書館の関連コーナーの案内が表示されれば、発展性が上がる。

（金野洋子委員）

QRコード付きの図書は学校ではなかなか購入できないので、図書館がそういった図書を購入することが、子どもに来てもらう1つの策かもしれない。

（藤村会長）

子どもが興味を持つ、図書館に来る、親も一緒に来る、といった発展性のあるものを色々考えてほしい。

（平野館長）

他の図書館との連携について、市では図書館も含めて施設の相互利用という事に力を入れている。それぞれの自治体で、維持管理をしていくのが難しくなっている状況もある。

特に住田町とは、定住自立圏構想というビジョンを立てており、図書館の事業については、図書館の相互利用ということでお互いに利用登録をするといった取り組みをしている。去年は、住田高校の生徒がインターンシップで図書館に来た事例もあった。

陸前高田市とも、互いの館で図書資料の得意分野があるので、連携は非常に重要であり、市をまたいだ相互利用を進めていきたい。

先ほどの広報の仕方、QRコードも含めて他の図書館とも連携できればと考える。

（原田総括責任者）

お互いのホームページに情報を載せる、お互いがメリットのあるようなコンテンツの交換といったようなものは当然考えていかなければいけないと考える。

（藤村会長）

着実に出来ることを一つずつやっていき、そして少しでも図書館を利用促進していくということが大事である。東海新報にも大船渡、陸前高田、住田町の図書館の記事が載っている。協力や補完をしていかなければならない部分も出てくることから、これからも進めてほしい。

協議第2号 令和7年度図書館資料購入計画（案）について （指定管理者 原田総括責任者説明）

■ **（藤村会長）**

本の平均単価が高くなっていると感じるが、購入見込冊数は、昨年と同じ冊数になるのか。

（中井業務責任者）

昨年度予算から一冊当たりの単価を1800円から1900円に上げて計算している。購入冊数は同じぐらいになる見込みである。ただし、昨年度の文学の分類の事例だが、単価の低い文庫の購入が多かったため、冊数が増え、金額が減るといった結果になる可能性はある。大よその目安をかけておくことで、バランスを見て購入することができると考えている。

（平野館長）

利用者向けアンケートで、読みたい本が増えたという声もあり、指定管理後に改善した部分であると同時に、選書がより重要になってきていると捉えている。図書が高騰している状況でも、質の高いものを選べるよう努める。

5 その他

・ **第3次大船渡市子どもの読書活動推進計画について （菅野係長説明）**

計画策定スケジュールについて口頭説明

（金野洋子委員）

学校図書館図書標準の捉え方について考慮してほしい。

・ **利用者アンケートへの回答について（指定管理者 原田総括責任者説明）**

昨年度実施のアンケート自由記載への回答について説明

（藤村会長）

アンケートをホームページ上から日常的に行う方法は考えられるか。

（原田総括責任者）

アンケート実施期間にはホームページからダウンロードできるようにしていたが、数は限定的だった。まずは周知が必要である。

一方で利用していない人もアンケート提出が可能な点についてなど、様々な議論がある。
いずれ、スマートフォンでできることは利便性が高いので、課題としたい。

（金野洋子委員）

図書の貸出・返却だけでなく、高校生等が学習する場所としての認知も定着してきていると見ているかどうか。

（原田総括責任者）

貸出人数よりも入館者数が増えている。アンケートの貸出しに対する設問に対して「借りたことがないのでわからない」という回答もあった。

リアスホールのレストランスペースが「涼み処」として学習に利用されている。連携しながら居場所としての図書館、リアスホールがどういうものなのか引き続き考えたい。

（平野館長）

高校生の大学受験、就職試験などの時期に、図書館、リアスホールのレストラン、おおふなぼーとの学習スペースの利用が増えている。高校生たちの勉強の場としてだいぶ定着してきているので、引き続きPRしていきたい。

6 閉 会（午後4時）